

[成果情報名]「新高」と同時期に収穫できる多汁・良食味ニホンナシ「甘太」(筑波 58 号)

[要約]ニホンナシ「甘太(かんた)」は、晩生品種「新高」と同時期に収穫できる青ナシである。果形は円形で玉ぞろいは中程度、果肉はやわらかく、多汁で食味良好である。また、果面全体にさびの発生が見られる。

[キーワード]青ナシ、甘太、多汁、さび

[担当]長崎県農林技術開発センター・果樹研究部門・ビワ落葉果樹研究室

[連絡先](代表) 0957-55-8740

[区分]果樹

[分類]指導

[作成年度]2013年度

### [背景・ねらい]

ニホンナシの栽培において、晩生では「新高」が主要品種として広く普及しているが、特性として果肉が硬く、早生、中生品種と比べて食味が劣る。そこで、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成され、「新高」と同時期に収穫できる「甘太」の果実特性を調査し、本県への適応性を明らかにする。

品種の来歴			
品種名	交配組み合わせ		
甘太	♀ 王秋	×	♂ あきづき

### [成果の内容・特徴]

1. 樹勢はやや強く、枝の発生密度は少～中程度で、花芽の着生は短果枝、腋花芽ともに中程度で着生がよい(表1)。
2. 果実は青ナシであり、有袋栽培においても果面全体にさびが発生する。円形で玉揃いは中程度、みつ症や裂果などの生理障害は無い(表1、写真1)。
3. 収穫期は、「新高」と同時期の9月下旬～10月上旬である(表2)。
4. 果実の大きさは500g以上であり、「新高」よりやや小さい。糖度は「新高」と同等の13度程度となり、果肉が軟らかく、多汁で食味良好である(表1、表2)。

### [成果の活用面・留意点]

1. 本試験で用いた「甘太」は2007年に高接した。台木はマメナシ、中間台は「幸水」である。「甘太」は樹齢5～7年生、「新高」は樹齢26～28年生、反復は1樹である。果実調査は両品種ともに有袋栽培したものをを用い、「甘太」は二重袋(新聞原紙、白色パラフィン)、「新高」は二重袋(新聞原紙、赤色パラフィン)を使用した。
2. 果実特性として有てい果の発生が多く認められる。樹勢が強く花芽の着生がよいため収量が見込まれる。
3. さびの発生は無袋栽培では果実全面に見られ、有袋栽培においても全体に見られるがやや軽減される。
4. 自家不和合性であり、交配においては主要品種「幸水」「豊水」「新高」と和合性であるが、「あきづき」「筑水」とは不和合性である。
5. 本品種は、2013年11月22日付で出願公表されている。

[具体的データ]

表1 「甘太」及び主要品種の樹体及び果実特性

品種	樹体特性				果実特性								
	樹勢	枝の発生密度	短果枝の着生	腋花芽の着生	果形	玉揃い	渋味	裂果	みつ症	心腐れ	さび	日持ち性(日)	多汁性(官能)
甘太	やや強	少～中	中	中	円	中	無	無	無	無	多	10～14	多
新高	強	中	中	中	円	中	無	無	無	無	-	-	少～中

表2 「甘太」及び主要品種の生育相及び果実品質

品種	年度	開花期		収穫期		果実形質			
		始(月.日)	終(月.日)	始(月.日)	終(月.日)	平均重(g)	果肉硬度 <sup>z</sup> (lbs)	糖度(Brix)	pH
甘太	2011	4.6	4.15	9.22	9.27	611	3.9	13.9	4.8
	2012	4.6	4.16	9.21	9.28	564	5.0	12.8	4.5
	2013	3.18	4.4	9.25	10.2	551	6.6	13.8	5.1
新高	2011	3.30	4.10	9.22	9.29	644	7.4	13.5	5.1
	2012	4.2	4.10	9.21	10.9	636	7.4	13.9	4.6
	2013	3.21	4.4	9.9	9.27	766	-	13.5	5.3

<sup>z</sup> マグネステラー硬度計(プランジャー径5/16インチ)により測定

有袋



無袋

写真1 「甘太」果実 有袋(上)と無袋(下)

[その他]

研究課題名：落葉果樹新品種の適応性

予算区分：県単

研究期間：1999年度～

研究担当者：松本紀子、石本慶一郎、田中実、谷本恵美子